

1 朗読をすると気分が良くなるのか？—音読と比較して
2 —
3 Do we feel better from reading a positive story aloud
4 with appropriate emotions?

和文タイトルと英文タイトルだけを書く。
本文は17行目から書き始める。

見出しはゴシック体にする。

17 問題と目的

18 最近の国語科教育では、テキストを声に出して読み上
19 げることが重視されている。たとえば、小学校国語の学
20 習指導要領第5学年および第6学年では、自分の思いや
21 考えが伝わるように音読や朗読をすることとある(文部
22 科学省,2008)。学習指導要領の記述では、音読と朗読は併
23 記されているが、これらの読み方にはどのような違いが
24 あるのだろうか。

25 福田(2014)は、黙読、通読、再読、熟読、精読、味読、
26 音読、朗読、暗唱といった読み方の意味について大学生
27 を対象に調査を行った。その結果、大学生は、意味理解
28 をともなう、発声をする読み方として朗読を捉えている
29 ことが明らかになった。一方、藤野・藤井・菅野(2013)は、
30 音読のうち感情を込めた読み方を朗読とし、感情表現を
31 重視している。また、藪中(2008)は、文章を声に出す読み
32 方の総称として音読を捉えている。その中でも、話し手
33 が文章内容を理解し、自分なりの解釈を施し、聞き手の
34 存在を意識し、聞き手の理解を促進させるような読み方
35 を朗読としている。

(中略)

37 そこで、本研究では朗読の読み方を統制し、朗読の第
38 2段階である声に感情をこめて発声することの効果につ
39 いて、音読と比較して検討する。これにより、文章を単
40 に発声する音読だけによって話し手の感情状態が物語の
41 感情価と一致するのか、それとも音声に感情をこめた朗
42 読をすることによってのみ、同様の感情状態になるのか
43 が判別できる。その際、黙読における感情に関する先行
44 研究から、話し手は物語が表している感情価と一致した
45 感情状態になると予測される。よって、材料としてポジ
46 ティブな物語を使用する。これは、参加者への精神的な
47 苦痛への配慮とともに、まずは朗読のポジティブな効果
48 を検討するためである。この目的を達するために、予備
49 調査でポジティブな感情を内包する物語を選定する。次
50 に、朗読や音読の読み方を統制するために、適切な教示
51 について実験1で探索的な検討を行う。そして、実験2
52 では実験1で明らかになった読み方にそって、朗読ある
53 いは音読といった実験操作が話し手の感情状態にどのよ
54 うに影響するかをプレ・ポスト計画の実験によって検討
55 する。なお、本研究は

56 倫理委員会に研究計画申請書を提出し、承認を受け
57 た上で行った。

著者の所属がわかる情報は黒塗りにする。

(中略)

61 結果・考察

62 物語材料3つについて、すべての参加者は知らなかつ
63 たため、次の分析に移った。

64 感性語を三和・小林(2003)の小分類にそって分け、そ
65 れぞれに1要因3水準被験者内分散分析を行った。評定
66 平均値とSD、F値、多重比較の結果を表1に示した。

【表1を挿入】

68 本調査の目的は、ポジティブな感情が書かれている物
69 語材料を選定することであった。材料として選んだ3つ

(中略)

図表の挿入位置を明示し、別ファイルに図
表を作成する。